

科目名	社会保障制度						
科目名(英)	Social security system						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	坂本 毅啓		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	大学教諭		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や高齢者や障害者自立支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。また、利用者の権利擁護の視点及び職業倫理観を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解できる。	
	○					介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得できる。	
	○					介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会保障の基本的な考え方 授業概要				教科書の該当ページを読んでおくこと。	
	2	国家試験対策 解説				"	
	3	年金保険(国民年金・厚生年金)				"	
	4	年金保険(国民年金・厚生年金)解説				"	
	5	年金保険(国民年金・厚生年金)				"	
	6	年金保険(国民年金・厚生年金)解説				"	
	7	介護保険				"	
	8	介護保険(解説)				"	
	9	雇用保険				"	
	10	雇用保険(解説)				"	
	11	労働者災害補償保険				"	
	12	労働者災害補償保険(解説)				"	
	13	関連制度 1				"	
	14	関連制度 2				"	
15	まとめ				"		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)講義中に小テストを実施する。(3)宿題で課題レポートを実施する。 (4)制度について調べ、Pポイントを作成し、発表する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	小テスト	◎					10%
	宿題・レポート	◎					10%
	発表・視覚的資料		◎				30%
履修上の注意							

科目名	介護の基本Ⅱ(総合)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	福祉施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。「介護の基本Ⅱ」では、生活を支援するという観点から、フォーマル及びインフォーマルな支援・地域連携・リスクマネジメント・多職種連携・労働環境などを理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高齢者の特性を理解し、感染症対策について説明することができる。	
	○	○				多職種連携・協働の必要性を理解し、生活支援に繋げることができる。	
	○	○		○		チームの一員としての介護福祉士の役割を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 介護福祉士用語辞典						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	感染症対策①			教科書の該当範囲を読んでおく		
	2	感染症対策②			教科書の該当範囲を読んでおく		
	3	多職種連携・協働①			教科書の該当範囲を読んでおく		
	4	多職種連携・協働②			教科書の該当範囲を読んでおく		
	5	多職種連携・協働③			教科書の該当範囲を読んでおく		
	6	多職種連携・協働④			教科書の該当範囲を読んでおく		
	7	保健・医療・福祉職の役割と機能			教科書の該当範囲を読んでおく		
	8	介護従事者の安全			教科書の該当範囲を読んでおく		
	9	国家試験対策①			授業中に実施した問題の復習をしておくこと		
	10	国家試験対策②			授業中に実施した問題の復習をしておくこと		
	11	国家試験対策③			授業中に実施した問題の復習をしておくこと		
	12	国家試験対策④			授業中に実施した問題の復習をしておくこと		
	13	国家試験対策⑤			授業中に実施した問題の復習をしておくこと		
	14	定期試験対策①					
15	定期試験対策②						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験は(筆記)試験とする。(3)ノート提出を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	確認テスト	○	○				30%
	ノート提出	○	○		○		20%
履修上の注意	・ノート・プリント整理を行っておく(確認実施)。 ・確認テストについては、必ず提出すること。 ・授業中の居眠りは欠課とする。						

科目名	生活支援技術 I A-②(被服)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	三浦 薫		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	短期大学・専門学校にて 教員として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	家庭生活、被服生活について講義 被服生活では演習で基本的縫い方を目標とする						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				家庭生活、被服生活について学び、試験で答えることができる。	
			○	△		演習で基本的縫い方ができる。	
			○	△		にぎりん棒を作ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	家庭生活の理解 家族の意味・家庭の在り方・少子化問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	家庭管理 高齢者の生活時間の現状、情報管理・生活状況			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	家庭経済 収入・資質について、消費者を守る法律			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	被服生活 被服の起源、機能、役割、高齢者からの技術伝承			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	被服管理 サイズ表示、繊維分類、洗濯表示、洗剤、他			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	高齢者、障害者の被服について 着心地の良い衣類、和服			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	基本的縫い方 ① 用具について、並縫い、返し縫、まつり縫い			配付プリントを読んでおくこと		
	8	基本的縫い方 ② ボタンつけ、コの字まつり			配付プリントを読んでおくこと		
	9	刺し子 ① 布に下絵を書く			配付プリントを読んでおくこと		
	10	刺し子 ② 縫い糸を「しごく」			配付プリントを読んでおくこと		
	11	刺し子 ③ 縫い糸を「しごく」			配付プリントを読んでおくこと		
	12	にぎりん棒 ① 布・平ゴムに標つけ、平ゴムを返し縫い			時間内に出来ないものは自分で取り組んでおくこと		
	13	にぎりん棒 ② パイプを入れ、綴じる			時間内に出来ないものは自分で取り組んでおくこと		
	14	寝衣・寝具について 寝衣の種類、寝具の種類材質			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	前期試験対策 提出物評価			1コマ目からの復習をしておくこと			
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 3つの演習を評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	演習(基本縫い)			◎	○		5%
	演習(刺し子)			◎	○		15%
	演習(にぎりん棒)			◎	○		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術Ⅱ(総合)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	江下 馨		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	校外学習を通し、障害者福祉団体の取り組み、役割、福祉従事者としての視野、地域貢献活動を学ぶ。生活支援技術の知識・技術の振り返りと学習の定着。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○	○		国際車いすバスケット世界大会に参加。ボランティア内容を把握して動くことができる	
	○		○			生活支援技術の知識・技術を他者に説明することができる	
	○		○			1年次生活支援技術を1人で行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	国際車いすバスケット世界大会 運営規定 中央法規 生活支援技術Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業概要・ボランティア趣旨説明、事前学習					
	2	生活支援技術 基礎編 1			趣旨理解・動きの確認をしておくこと		
	3	国際車いすバスケット 事前研修 総合体育館			他役割のサポートができるよう全体の動きを確認する		
	4	国際車いすバスケット 事前研修 総合体育館			他役割のサポートができるよう全体の動きを確認する		
	5	生活支援技術 基礎編 2					
	6	生活支援技術 応用編 1(G演習)					
	7	国際車いすバスケット ボランティア実践 1					
	8	国際車いすバスケット ボランティア実践 2					
	9	国際車いすバスケット ボランティア実践 3					
	10	国際車いすバスケット ボランティア実践 4					
	11	国際車いすバスケット ボランティア実践 5					
	12	ボランティアレポート					
	13	実技テスト 1			実技テスト練習をしておくこと		
	14	実技テスト 2			実技テスト練習をしておくこと		
15	実技テスト 3			実技テスト練習をしておくこと			
評価方法	(1)ボランティア出席状況とレポート評価を行う。7コマ出席で100とする。その後、欠課1回で-5、欠席1回で-10とする (2)生活支援技術実技試験を行う。生活支援技術のみの評価がDの場合は補講実施。欠席の場合は再実施。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	車いすバスケット出席状況				○		25%
	車いすバスケットレポート	○					25%
	実技試験	○		○	○		50%
履修上の注意	欠席時の評価確認。時間外練習をおこなうこと。実習室利用時、不適切な使用の場合は、今後の使用を禁ずる。						

科目名	生活支援技術Ⅲ(形態別介護技術)						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして在宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	障害や疾病のある人について医学的・心理的側面から理解すること、生活上の困りごとを理解すること、障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解すること。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		国家試験過去問に正答できる。	
	○			○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。	
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。	
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ 中央法規 介護福祉士養成講座 障害の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	視覚障害に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	2	聴覚障害の応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	3	言語障害に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	4	【内部障害】心臓機能障害に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	5	【内部障害】呼吸器機能障害に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	6	【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	7	【内部障害】小腸機能障害に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	8	【内部障害】HIVによる免疫機能障害に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	9	【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	10	精神障害に応じた介護 ①精神障害とは ②精神障害の種類				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	11	精神障害に応じた介護 ③精神障害の特性 ④特性に応じた介護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	12	【難病】難病とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	13	【難病】主な難病とその特性の理解①ALS・筋ジストロフィー				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
	14	【難病】主な難病とその特性の理解②パーキンソン病・悪性関節リウマチ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回以上実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)出席状況には授業への参加態度(居眠り・私語・グループワークや発表の様子)。以上を下記の観点・割合で評価する。)成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート		○		○		10%
	出席状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	介護過程Ⅲ					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	江下 馨	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績	
対象学科・学年	介護福祉科 2年					
授業概要	利用者の生活の継続を可能にするためのケアマネジメントについて理解したうえで、ケアプランと個別援助計画の関係について学ぶ。チームアプローチによる利用者支援の実際について理解を深める。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○		○		Ⅲ段階実習 利用者の介護過程の展開を評価、考察を捉えて発表できる。
	○	○		○		事例検討で、自発的な意見を発言し介護過程の展開を理解した発表できる。
	○					国家試験過去問に正答できる。
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護過程					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	介護過程の理解 実習Ⅲ事例検討 計画の実施評価 振り返り			介護過程Ⅰからのファイルを整理しておく	
	2	介護過程の理解 実習Ⅲ事例検討について			実習Ⅲ担当利用者 日誌を整理しておく	
	3	実習Ⅲ 事例発表 作成 1				
	4	実習Ⅲ 事例発表 作成 2				
	5	実習Ⅲ 事例発表 作成 3				
	6	実習Ⅲ 事例発表 作成 4				
	7	実習Ⅲ 事例発表 作成 5			発表準備は各自おこなっておく、資料提出	
	8	実習Ⅲ 事例発表 作成 6			評価ポイントをまとめてファイルしておく	
	9	実習Ⅲ 事例発表・評価 1			評価ポイントをまとめてファイルしておく	
	10	実習Ⅲ 事例発表・評価 2			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	11	実習Ⅲ 事例発表・評価 3			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	12	実習Ⅲ 事例発表・評価 まとめ			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	13	介護過程の理解 アセスメントから評価の振り返り			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	14	介護過程とチームアプローチ ケアマネジメントの関係性			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	15	介護過程とチームアプローチ チームアプローチにおける役割			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	16	介護過程展開の実際 入所生活事例 アセスメント表作成 1			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	17	介護過程展開の実際 入所生活事例 アセスメント表作成 2			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	18	介護過程の実践的展開 介護計画立案にむけたグループワーク 1			事例から必要と思われる箇所を確認しておく	
	19	介護過程の実践的展開 介護計画立案にむけたグループワーク 2			事例から必要と思われる箇所を確認しておく	
	20	介護過程の実践的展開 入所施設における介護過程の展開 1			質問ができるようにまとめておく	
	21	介護過程の実践的展開 入所施設における介護過程の展開 2			資料作成	
	22	介護過程の実践的展開 事例発表作成 1				
	23	介護過程の実践的展開 事例発表作成 2				
	24	介護過程の実践的展開 介護過程の視点 評価 まとめ			評価の視点はまとめてファイリングを行う	
25	介護過程 展開の実際 1					

	26	介護過程 展開の実際 2					
	27	利用者の生活と介護過程の展開 1					
	28	利用者の生活と介護過程の展開 2	評価の視点はまとめてファイリングを行う				
	29	国家試験問題 1 解答と解説	ファイルを順番にまとめておく				
	30	国家試験問題 2 解答と解説 介護過程Ⅰ～Ⅲ ファイル提出					
評価方法	(1)講義内で事例検討、発表を行う。(2)介護過程過去問題を実施する (3)最終日にファイル提出がある以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	事例検討・発表	◎			○		50%
	発表取組み・質問・意欲	◎			○		40%
	国家試験過去問題	○					10%
履修上の注意	1年次からのファイルは順番にまとめておく。後期試験時に提出する。						

科目名	第Ⅲ段階実習						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	大島・角屋・江下		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	福祉施設で介護福祉士として勤務(大島・江下) 看護師として病院・クリニック・ケアマネとして居宅支援事業所勤務(角屋)		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	施設の運営・地域との関り、福祉サービスに対する理解を深めチームの一員として介護福祉士の役割を理解する。 個別の介護計画を立案し介護過程を展開する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○	○	施設の概要を理解できる。	
	○	○	○	○	○	業務内容を理解できる。	
	○	○	○	○	○	介護過程の必要性を理解できる。	
	○	○	○	○	○	実習を通して自分自身の課題を見つけることができる。	
○	○	○	○	○	介護福祉士としての職業倫理、社会的役割を理解できる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日8時間×20日間 各実習先で実習。実習担当指導者、巡回教員による個別指導。				各領域において習得した知識・技術を統合する。	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
19							
20							
評価方法	評価項目は評価表に準ずる。 基本技術・実習態度・介護過程大項目。各小項目はA～E5段階評価。 施設点、教員点の合計が60点以下不合格。再実習の結果により再履修。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	施設評価	○	○	○	○	○	75%
担当教員評価	○	○	○	○	○	25%	
履修上の注意	100%出席をもって評価の対象となる。規定規則に定める時間数(3分の2以上)に満たない者については再実習となる。						

科目名	障害の理解							
科目名(英)	Understanding Disability							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	森山 新治			
実施年度	2020	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	障害者施設・事業所 36年勤務			
対象学科・学年	介護福祉科 2年							
授業概要	それぞれの障害(肢体不自由、重複障害、重症心身障害)に関する基礎知識と、生活環境に適した支援の基本的支援を学ぶ。 障害のある人の地域生活を支えるさまざまな社会資源・関係機関との連携や、関係職種とのチームアプローチのあり方を学ぶ。また、障害のある人を支える家族への支援のあり方を学ぶ。							
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				それぞれの障害の特性について配慮した介護の根拠について説明することができる。		
	○	○				地域のサポート体制や福祉用具をはじめとした障害福祉施策について説明することができる。		
	○	○				家族支援の視点とレスパイトケアについて説明することができる。		
	○			○		生活支援の場面において障害のある人の心理的、身体的特徴へ配慮できる。		
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座14「障害の理解」中央法規							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	前期確認テスト				確認テストをするので復習しておくこと		
	2	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 肢体不自由Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	3	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 肢体不自由Ⅱ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	4	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 肢体不自由Ⅲ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	5	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 肢体不自由Ⅳ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	6	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 重複障害Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	7	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 重複障害Ⅱ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	8	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 重症心身障害Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	9	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 重症心身障害Ⅱ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	10	連携と協働Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	11	連携と協働Ⅱ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	12	連携と協働Ⅲ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	13	家族への支援Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	14	家族への支援Ⅱ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと		
	15	まとめ				重要ポイントを再度確認するため、これまでのノートやプリント類を事前に整理しておくこと		
評価方法	(1) 授業の中で項目ごとに小テストを実施する。 (2) レポートを数回実施する。 (3) 定期試験を実施する。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	○				50%	
	小テスト・レポート	○	○				30%	
	出席状況				○		20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は、出席とみなさない。							

科目名	総合学習					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	大島 角屋 江下	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医療・福祉業界にて専門職として勤務	
対象学科・学年	介護福祉科 2年					
授業概要	国家試験の出題範囲である「人間と社会」「介護」「こころとからだ」の3領域について、基礎知識の確認し、応用問題に取り組む。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○		○		3領域に関する基礎知識が定着する。
	○	○		○		課題に取り組み正誤の解説ができる。
テキスト・教材 参考図書	ワークブック上下・国家試験過去3年分テキスト・用語辞典・小六法					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	模擬試験			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	2	模擬試験			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	3	模擬問題 午前問題解きなおし			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	4	模擬問題 午前問題解きなおし			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	5	領域別【社会の理解】 1			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	6	領域別【こころとからだ】 1			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	7	領域別【こころとからだ】 2			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	8	領域別【社会の理解】 2			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	9	領域別【こころとからだ】 3			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	10	領域別【社会の理解】 3			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	11	領域別【こころとからだ】 4			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	12	領域別【介護】 1			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	13	領域別【社会の理解】 4			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	14	領域別【こころとからだ】 5			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	15	領域別【介護】 2			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	16	領域別【こころとからだ】 6			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	17	領域別【介護】 3			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	18	領域別【介護】 4			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	19	領域別【介護】 5			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	20	領域別【こころとからだ】 7			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	21	模擬試験 午前問題			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	22	模擬試験 午後問題			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	23	模擬試験 午前問題解きなおし			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	24	模擬試験 午後問題解きなおし			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	25	学力評価試験に向けて自己学習			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
26	学力評価試験			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと		

	27	学力評価試験	自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと				
	28	学力評価試験 解きなおし	自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと				
	29	学力評価試験 解きなおし	自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと				
	30	学力評価試験 抜粋テスト	自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと				
評価方法	(1)授業の中で模擬試験実施。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	模擬試験	○	○		○		50%
履修上の注意	合格点に満たない場合は、補講を行うので必ず出席すること。 領域別にファイルを作成し、プリントを整理すること。						

科目名	卒業研究						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	福祉施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	2年間の介護福祉科での学内学習、実習経験の中で、自らの研究課題を設定し、検証をしていく。その研究過程を通して主体的に取り組む姿勢を身につけ、研究の展開方法を理解し結論を導き出すことができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		自らの研究目標を明確にし、卒業研究完成まで計画的の取り組みことができる。	
	○	○		○		自ら設定したテーマの現状を捉え、課題を明確にし、今後の方向性を導き出すことができる。	
	○	○				卒業研究執筆のルールを守り完成させることができる。	
テキスト・教材 参考図書	福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	卒業研究の実施について(概要)			関連する情報を集める		
	2	個別ガイダンス			関連する情報を集める		
	3	卒業研究(情報収集)			関連する情報を集める		
	4	卒業研究(情報収集)			関連する情報を集める		
	5	卒業研究(情報収集)			関連する情報を集める		
	6	卒業研究(情報収集)			関連する情報を集める		
	7	情報の整理・骨子作成			情報の整理		
	8	情報の整理・骨子作成			情報の整理		
	9	卒業研究本文作成			文章の見直し・作成		
	10	卒業研究本文作成			文章の見直し・作成		
	11	卒業研究本文作成			文章の見直し・作成		
	12	卒業研究本文作成			文章の見直し・作成		
	13	卒業研究本文作成			文章の見直し・作成		
	14	卒業研究本文作成			文章の見直し・作成		
15	卒業研究本文作成			文章の見直し・作成			
評価方法	(1)レジュメの提出、本文中間提出(2)卒業研究の完成(3)態度・意欲をもって評価とする。 成績評価機軸は、、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(卒業研究完成)	○	○				50%
	レジュメ	○	○		○		25%
	中間提出	○	○		○		25%
履修上の注意	卒業研究作成にあたり、外部に出る場合は事前に担当教員の許可を得ること。						